

水曜通信10

東北学院宗教センター編

2021年
9月

LIFE

LIGHT

LOVE

甲子園初出場と基督教教育

東北学院高校が夏の高校野球宮城大会で優勝し、甲子園初出場を決めた。創部以来の快挙である。しかも、来年度より東北学院中学高校は女子生徒を受け入れるので、男子校最後の年の記念すべき出来事である。

東北学院は、創立以来135年を数え、宮城県における中等教育機関としても長い歴史をもち、押川方義初代院長の次男押川清氏は日本の野球史上有名な人物であるのに、今回初出場というのは意外であった。おそらく、宮城県においては、全国から選手を集め、立派な寮やグラウンドをもつ他の私立学校が常連校であったことと関連しているのであろう。

今年の夏の大会は、コロナ禍で練習が制約されてきたせいか、常連校が次々と姿を消した。建学の精神であるキリスト教による人格教育は、教室や礼拝堂だけで完結するのではない。フェアプレーや、チームメイト、相手選手への思いやりなど、課外活動である部活動においても、その教育成果を十分に発揮してもらいたい。



「サマリアの女」
(ヨハネによる福音書 4:1-42)
田中 忠雄作 1987年

「イエスとサマリアの女」の場面。旅に疲れ、サマリアの町シカルの井戸で座っているイエスと、そこに水を汲みに来たサマリアの女。

第4回
泉キャンパス礼拝堂
ステンドグラス紹介



東北学院宗教センター所長（院長・学長） 大西 晴樹

次回：第45回水曜公開礼拝(公開オンライン礼拝)
9月22日配信予定

学校法人東北学院ホームページをご覧ください。

【第1部 礼拝】

説教：川島 堅二（本学総合人文学科長）

奏楽：渡辺 真理（本学礼拝オルガニスト）

【第2部 音楽による賛美】

演奏：渡辺 真理



第44回 水曜公開礼拝報告（説教：原田 浩司、奏楽：小野 なおみ）

2021年7月21日（水） 公開オンライン礼拝

讃美歌：452番「ただしきよくあらまし」
聖書：ヨハネによる福音書 12章20-26節
讃美歌：280番「わが身ののぞみは」
説教：「一粒の麦」
頌栄：542番「よをこぞりて」



【説教要旨】

一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ（12:24）。わたしがはじめてこの言葉と出会ったのは三浦綾子著『塩狩峠』だった。主人公はなぜ死ななければならなかったのかと問いかける不思議な小説だ。

イエス・キリストはあなたに一粒の麦になり、沢山の実を結べと教えているのではない。寧ろ、わたしがあなたの一粒の麦である、わたしがあなたを救う、あなたと共にいる。あなたはその実りを収穫すると言われる。

キリストは神であるにもかかわらず、天から「地に落ちて」人となり、十字架の上で死に、三日後に甦えられた。この物語の主人公であるイエス・キリストはなぜ死ななければならなかったのか。この地に生きるわたしたちに救いと赦し、そして永遠のいのちの収穫を与えるためであった。（文学部 原田 浩司）

前奏：F.クーブラン《修道院のミサ》グロリアより「クロモルヌをテノールに」

後奏：F.クーブラン《修道院のミサ》アニュス・デイより「ブラン・ジュ」

17～19世紀のフランスで、多数の音楽家を輩出したクーブラン一族。中でも「大クーブラン」と呼ばれるのが、フランソワ・クーブランです。21歳でパリのサン・ジェルヴェ教会のオルガニストに就任し、翌年に最初の作品である2つのオルガンミサを発表しました。曲名は音色の指定であり、クロモルヌは情緒的な曲でよく使用されています。

（本学礼拝オルガニスト 小野 なおみ）



礼拝後、音楽による賛美（オルガン独奏：小野 なおみ）

1. J.S.バッハ《クラヴィーア練習曲集第3部》より「クリステ、世の人すべての慰めなるキリスト」BWV670
2. J.S.バッハ《クラヴィーア練習曲集第3部》より「深き淵より、われ汝に呼ばわる」BWV686

バッハがライプツィヒでこの曲集を出版したのは、1539年にルターが同地で説教を行ってからちょうど200年後の1739年です。三位一体を表す「3」が全27曲の構成を支配しており、曲集の軸となる21曲のコラール作品は「キリエ」と「グロリア」に続き、ルターの教理問答集のテーマ順（十戒、信仰告白、主の祈り、洗礼、悔い改め、聖餐）に並んでいます。また殆どのコラール作品が、専門家のためのペダル付きと、愛好家のためのペダルなしのセットとなっており、これらはルターの『大教理問答集』『小教理問答集』に対応しています。ドイツ語キリエ第2部に基いたBWV670は2つの手鍵盤とペダルで演奏され、BWV686は二重ペダルの上声部に詩編130編を基としたルターのコラールが置かれています。収録はいつも緊張との戦いでもあります。梅雨明け翌日となった今回の収録は緊張に加え、30度を超える蒸し暑さとの戦いも加わりました。準備から編集まで様々にご尽力いただいた教職員の方々に感謝いたします。（小野 なおみ）



東北学院の草創期 (9) 「最初の学生」

創立当初の学生は、ホーイが一年後の7月に報告した手紙から、以下の7名であることはよく知られています。

松田順平 (23歳)、早坂千三郎 (24歳)、西堀幸八 (32歳)
橋本宗之進 (23歳)、安部保次郎 (20歳)、田村兼哉 (19歳)
島貫兵太夫 (20歳)

ホーイが最初の「一年間の生活の面倒をすべて自分がみる」と押川に約束したことは前号で紹介しましたが、その後は外国伝道局をとおしてアメリカの教会や信徒から支援を受けていました。ランカスター神学校の資料保存室には、仙台で撮影された彼らの個人写真が保存されており、裏面には支援した教会や個人の名前が記されています。

彼らは、卒業後5年間は日本基督一致教会という教派において伝道に従事するという誓約のもとで、奨学金を給付されることになっていました。仙台神学校は、東北学院と改称するまではこの一致教会の伝道者養成機関と位置づけられていたからです。しかし、様々な理由から一人二人と離れて行き、最終的に神学部卒業生として記録されているのは田村と島貫の2名だけです。

次号からは『百年史』に記された順に、学生一人ひとりの生涯をたどってみたいと思います。

(東北学院史資料センター 日野 哲)



次号で紹介する西堀幸八



裏面に書かれている教会名

— 建築が語る東北学院の歴史 (4) —

去る7月16日、文部科学省文化審議会が、土樋キャンパスの正門を新たに登録有形文化財として登録するよう、文部科学大臣に答申しました。

土樋キャンパスでは、2014年に本館・礼拝堂・大学院棟の3棟が登録有形文化財に登録されました。その際、正門も候補となりましたが、来歴に不明な点があり、見送られました。近年の調査でその不明点が解消されたことが、今回の答申に繋がりました(概要については、水曜通信第8号をご覧ください)。

正門の登録は、それ自体に文化財の価値のあることが認定されたことを示すと同時に、既登録の3棟と一群として、土樋キャンパスの中心にシュネーダーの理念を伝える空間が90年に渡って継承されていることを内外に示すものと言えます (fig.1,2)。未来を拓く五橋新キャンパスが着々と建設される中、歴史を繋ぐ土樋キャンパスは、その価値を一層高めることとなりました。今後、答申を踏まえ、官報告示を経て、登録手続が行われる予定です。

(工学部 崎山 俊雄)

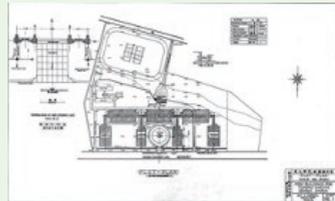


Fig.1 土樋キャンパス創建時のマスタープラン



Fig.2 昭和30年代の航空写真(一部加筆)

教職員聖歌隊の対面練習再開

毎月の第4水曜日の19時から。ラーハウザー記念東北学院礼拝堂にて。

対面授業が部分的に可能になった状況を受けて、2020年6月以来zoomで行っていた教職員聖歌隊の集まりも、この6月から対面で再開しました。合唱の喜びは、人々が集って神さまを讃美する礼拝の喜びです。交響曲も同じ、また神さまを中心とする東北学院での全ての仕事も同じです。

教職員聖歌隊と名付けていますが、東北学院の教職員だけでなく、学院の卒業生またその関係者など、どなたでも歓迎です。ご都合のつく方、どうぞご参集ください。

(理事長特別補佐〈宗教センター担当〉 鐸木 道剛)



2019年6月26日 ホーイ記念館音楽室にて



2021年7月28日 ラーハウザー礼拝堂にて

芸術による賛美 —表現ではなく再現—



近代における芸術は、芸術家の個性の表現 (expression) であることを疑いません。夏目漱石も書いています。「芸術は自己の表現に始って、自己の表現に終るものである」(『文展と美術』1912年)。

しかし芸術はそもそも人間の内面の吐露ではなく、神を描くことでした。過ぎゆく虚しい物質「もの」で、神そして永遠を再現するのです。これは787年のビザンティン帝国における第2ニケア公会議で成立した「イコン (聖像)」です。見えない父なる神は描くことはできません。しかし人であるイエスすなわち神の肖像画は可能なのです。

しかし神の肖像画は、神そのものではありません。マルチン・ルターも、地上の音楽がいかに素晴らしくとも、天上の音楽とは違うと書いています(『卓上語録』4192番)。

カール・バルトも、神以外の全ての「もの」に対しては「一步手前の真剣で真剣に対峙する (in vorletztem Ernst ernst nehmen)」と書いています(『教会教義学』和解論)。芸術は神を描くけれども、芸術は神自身ではないのです。それが再現また表象 (representation) の意味です。(鐸木 道剛)

イエス・キリストのイコン 6世紀 84x45.5cm, シナイ山 カタリナ修道院



いのち

ひかり

あい

東北学院スクールモットー
LIFE LIGHT LOVE (いのち・ひかり・あい)

東北学院宗教センター編「水曜通信」
第10号

2021年9月1日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

発行責任者: 宗教センター主任 野村 信

東北学院宗教センター TEL: 022-264-6558

Email: c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp